

# 海外水ビジネスの眼

はじめに B/Cと言えば、先ず西暦紀元前 (Before Christ) を思い出す。また、カナダの西海岸 B/C州 (British Columbia州)、アラスカ州とカリフォルニア州の間で大都市バンクーバーのある州) も思い出す。

しかしながら、海外水ビジネス研究会の議論の中で、重要な3つのB/Cにたどり着いた。1つ目は、Benefit by Cost (B/Cビーバイシー) 費用対便益(効果)である。便益と効果は同義に使うこともあるが、貨幣価値に換算できるもの

だけの場合を費用対便益とし、貨幣価値に換算できないものを含む場合を費用対効果と呼ぶこともある。公共事業の事業評価に用いられているが、金融機関にとってもこの言葉は便利な言葉で、技術開発のもたらす企業の儲けを考えるときにしばしば用いられる。経営の基本の一つであるが、投下資本の回収のように「投資期間」までしっかりと考えて用いていることは少なく、税法上の法定耐用年数を用いるか、期間そのものを用いないか (コストパフォーマンスと同義に使うような

場合) のいずれが多いように思われ、期間はあまり重視しない概念のような気もする。金融機関は、個別の技術の費用対便益を考えることは少なく、むしろ投下資本全体の回収 (減価償却 + 利益) を表す指標であるIRR (Internal Rate of Return 内部収益率) で判断する。2つ目は、Business Continuity 事業の継続である。水道を含む公益事業は、大災害や大事故があっても継続的に生産物を供給・利用できなくてはならな

## いろいろなB/C

い。そのための計画が、BCP (事業継続計画) であり、公益事業の監督官庁がBCPのガイドラインを示し、多くのコンサルティング会社は、事業体よりBCP作成の受託をしているようである。最近では、2020年5月20日に経済産業省が工業用水のBCPガイドラインを公表している。2022年7月のau大規模通信障害では、BCPがうまく機能しなかったようで、複線化で緊急時に備える動きが進んでいるようである。

3つ目は、Buyer's Credit (B/C) バイヤーズクレジット (バイクレ) である。バイヤーズクレジットは、海外にいる輸入者・買主への輸出金融の供与であり、Supplier's Credit (S/C)、輸出者・売主への輸出金融の供与の対になる言い方である。かつては、S/Cが大半であったが、現在ではB/Cが大半である。B/Cはバンクローン (輸入者に信用力がない場合など、輸入者には地場銀行経由で貸す) と合わせて、B/C・B/Lとも言う。S/Cだと、相手国のカントリーリスクを借入人が負担するのに対し、B/Cだと融資者がカントリーリスクを負担するから、たとえ海外の借入れ人との直接のやりとりなど融資者に事務負担が大きくてもこのようにシフトしてきたのであろう。時の流れを感じる。

他にめぼしいB/Cとしては、Budget Control (予算管理) とBills for Collection (代金取立手形) もある。

以上これらのB/Cは、経済・金融用語として極めて重要であることを理解いただけたと思う。

(アリス)